第 200 回 森で遊ぶ会 「静岡県立森林公園 秋の観察会」実施報告書

1. 実施日時 令和 5 年 10 月 23 日（月） 8:00 ～ 16:30

2. 実施場所 （浜松市浜北区・静岡県立森林公園）

3. 参加インストラクター会員

担当： 青野、 杉山

アシスト会員： 大石、越智、高橋、小久保、小嶋、佐野、小長井、瀬下

4. 一般会員の参加 合計 21 名

5. 実施状況

木の実を観察の主題にと思い、企画した観察会であったが、下見の時に、湿地に咲く多くの秋の花を目にし、今回はこれが目玉になると確信した。

参加者は 21 名。一班 4～5 人のグループに分け、5 班編成で対応、そこにインストラクターを 2 名付け、理想的な体制で、参加者誰もがじっくり話を聞ける、質問もできる、そんな観察会となった。各班とも個性豊かな解説をモットーとする面々であるので、参加者にとって楽しい観察会になったことだろう。

到着早々に、モミジバフウの紅葉が出迎えてくれた。下見時には、まだ色づきが薄かったが、時間の経過とともに木々は彩を深めていく。湿原の花達はどんなだろうか？期待を込め、観察会は始まった。各班の観察の様子をかいつまんでお知らせしよう。

【第1班】（担当： 小久保、青野）

当班の参加者は一組のご夫婦と2人の男性の計4名で、いずれも最近よく参加される方々だった。そこで、先ずバードピア前の樹木を詳しく解説することからスタートした。今回の題目は「秋の木の実」なので、例えばケヤキでは普段は目にも留めないであろう小さな実をしげしげと観察、また種子散布にはそれを枝葉ごと風に乗せて飛ばすことを説明した。ケヤキをもっと知っていただくために、地味なその花についても図鑑でよく見てもらったりした。イロハモミジではそろそろ熟しかけた翼果を眺めたが、更に「花を見たことありますか？」と尋ねると「見たことない」という返事。この会に何度も参加されている方々でもこうなので、再び図鑑を開いて赤い雄花と雌花を見てもらい、また若い翼果が紅色をしている事などを知ってもらった。「イロハモミジは秋の紅葉だけでなく、春には花で、その後は若い実と、年に3回も彩りを楽しめるのです」と話すと、「全然、知らなかった」と喜んでいただいた。初っ端からこんな感じなので、我々は他班にずっと遅れながら進むことになった。それでも慌てずに、例えばコバノガマズミの真っ赤な実があれば1粒口に入れてみて「ウン、まだ渋い」と顔をしかめながらもっと熟したものを探したり、ミツバアケビの開きかかった果実の中味を少し失敬して口に入れ、「案外甘い…」と言いながら「ペッペッ」と種子散布のお手伝いをしたり、植物と触れ合いながら秋の実りを感じる観察行ができたものと思う。

（小久保 記）

【第2班】（担当： 小長井・杉山）

女性 5 人を案内した。初参加が 1 人、前回（2022 年 3 月）も参加が 3 人だった。途中で体調を崩された方があったため、その後は4人を案内した。

駐車場付近のモミジバフウやシャリンバイの観察からスタートした。これらの名前の由来を説明すると、初参加の方は、漢字の綴りなど細かく確認されて、名前の由来には興味があるようだった。この方はその後、ミミズバイの

ミミズの漢字「蚯蚓」まで確認された。漢字名は言うより見てもらった方が早いので、ホワイトボードを活用したりした。名前の由来は、他の参加者も興味を持っていただけたようだった。

今回の主な目的の果実を中心に観察したが、タカノツメの花火のような集合果が印象的であった。その他、類似種（ヒメユズリハとユズリハ、トチノキとホオノキなど）の区別点を説明したり、ガンピの冬芽が葉痕の下に隠れて毛だけが見えているのをルーペで確認してもらったりした。また、毛の有無によるピラカンサの見分け方も説明した。

五感の体験としては、カツラの葉の甘い香りや、スノキの葉の酸味を確認してもらったりした。サカキやヒサカキの実を潰し、みずみずしい液果を実感するなど色々な果実を観察でき、初めての体験もあり、またメモや写真を撮っている姿も見られたので、皆さんには満足していただけたのではないだろうか。

（小長井 記）

【第3班】（担当： 佐野、高橋）

3班は1組のご夫婦と女性2名の計4名で、よく参加される方々だった。今回、初めて案内をさせて頂いた。まず、駐車場周辺の木々の色づきを観察してもらい、紅葉の始まる気温や海外からも観に来る程、日本の紅葉が美しい理由について解説してから観察を開始した。

コースは起伏に富んだ地形で、場所によって土壌中の保水性も違う。当然、植生も違ってくるので、コシダとウラジロシダの生えている場所の地形を観察してもらった。コシダは乾燥気味の場所にも生えていた。生えている植物を観察することで、その場所の土壌や地形を推理できることを知ってもらった。

実をつけたソヨゴがあったので、ライターの火で葉を熱すると、「パチン！」と破裂音がした。マジックを観ているようで不思議そうな顔をしていた。種明かしを求められたが、明かすことはできなかった。クサギやゴンズイが実を付けていた。黒と赤の二色効果で小鳥にアピールしていること、鳥の色覚について解説した。上空ではノスリの旋回する様子や、池ではカワセミが飛んでいる姿を観察することができた。湖面上を飛ぶコバルトブルーの姿は美しく、大興奮！ キンモクセイの木ではエナガが群れで飛来し、間近で観ることができた。また散策道ではマムシにも遭遇。今回の散策では、色々な感動や驚きがあった。参加者の一人から参加するか迷っていたが参加して良かったという言葉をいただいたので、皆さんにも満足いただけたと思う。

（佐野 記）

【第 4 班】（担当： 小嶋・大石）

4 班は常連の 4 名を案内する。

うぐいす谷の道をゆっくりと下っていく途中では、ヤシャブシの木に寄生したヤドリギを観たり、まだ青いアオモジの実やヒサカキの実を観たりした。

コバノガマズミを試食してみるもまだ酸っぱく、あまり美味しくないので不評だった。実は果実酒がおすすめなのだ。道端には、既に花穂が枯れかけているノギランが観られ、皆さん珍しがっていた。そういえば静岡ではあまり目にしない植物だ。水辺の道ではタイワンホトトギス、ツワブキ、オカダイコンなどを愛でながら西の谷奥池に着いて早々と昼食とする。皆さん朝が早かったのでお腹が空いたようだった。

やはり今日一番のハイライトは三番池上部の湿地帯でのシラタマホシクサ、アケボノソウだった。一面に咲く白やピンクの花々は美しい。女性陣は花が好きだ。この花の美しさや涼しい日陰の道に癒された今日一日だった。

（小嶋 記）

【第 5 班】（担当： 瀬下・越智）

女性 4 名を案内する。午前のコースは数日前から咲き始めた「みどりの丘」のイヌセンブリを入れ、今の時期の森林公園ならではの植物として紹介した。道中にセンブリもあったため、両種を比較することができた。

タイワンホトトギスとホトトギスの比較やミゾソバ、ウナギツカミ、ヤノネグサなど似た種をいろいろと比較観察できた。植物の繁殖方法のバリエーションとしてセンボンヤリやスミレの「閉鎖花」、胞子で増えるシダ（フユノハナワラビやコウヤワラビ）を紹介した。

湿原に咲くシラタマホシクサでは、稜があり捩じれることで強度を維持する茎の仕組みなど実際に茎をしごき、その動きを見てもらいながら解説した。また、トンボやクモなど目についた種も簡単に紹介した。

全体的に木以外に草やシダを紹介する部分が多かった。今回は 4 名の案内であったので、それぞれの体調や興味、様子を見ながら進行できたのがよかった。要所要所で越智インストラクターの補足説明もあり、より丁寧な案内になったと思う。

（瀬下　記）

各班の状況でした。味や香りに加え、音、動き方、実演を交える解説、植物以外にも地質や鳥類など多彩な解説で参加者は満足していただけたと思う。各班の解説ぶりを参考にして、次回の観察会に生かしていきたい。

今回、参加者の中で 1 名体調不良者が出て、途中でリタイヤすることになった。しかし、この森林公園の解説者でもあり当会のメンバーでもある瀬下インストラクターの判断や、当公園管理を担当する職員の搬送や看護などの協力があり、無事、事なきを得、帰路に就くことができた。大いに助かりとても感謝している。ありがとうございました。

【写真で見よう観察の様子】

まずは体操から

さて、果実はどこだ？

ここがこうなっていて…

あれは何だろうか…

どこだ?エナガはどこだ?

そこに咲いているのが…

アケボノソウが咲いているんだ

美しいアケボノソウ、主役だね